

平成27・28年度 練馬区教育委員会 教育課題研究指定校

《 研究主題 》

「地域の一員として、誇りをもって学ぶ児童の育成
～アクティブ・ラーニングによる指導を生かして～」

講師 寺崎千秋先生への質問事項と回答集



練馬区立豊玉東小学校

寺崎千秋(てらさき)先生プロフィール

現在、一般財団法人 教育調査研究所 研究部長。

東京都公立小学校教員。東京都教育委員会指導主事、同 主任指導主事。都立教育研究所教科研究部長。練馬区立開進第三小学校長、同 光和小学校長。全国連合小学校長会会長。全国生活科・総合的な学習教育研究協議会会長。生活科・総合的な学習教育学会常任理事。中央教育審議会臨時委員。文部科学省政策評価有識者会議委員。東京学芸大学教職大学院特任教授。

著書『新教育課程完全実施の授業力更新』他、多数。

はじめに

本日の授業の児童の姿はいかがだったでしょうか。児童に任せる、教師は何を
どうするのか。2年間、いろいろな試行錯誤をして本日の公開授業に至りました。

講師の寺崎先生から、まず授業への姿勢と次に生かす協議会のもち方を学びました。
そして、その日の授業と協議会から学んだことのみならず、質問や疑問を講師の寺崎先
生が回答という形でご指導していただき、授業の取組の内容をより一層深めることがで
きました。生活科や総合的な学習の時間の専門でない者には大きな力となりました。

この冊子は、本校の研究のエッセンスが載っているといっても過言ではありません。
今回、寺崎先生のご厚意により、その質問と回答の資料を印刷・配布させていただける
ことになりました。ここに校長として、再度、厚くお礼を申し上げる次第です。

平成29年1月26日

練馬区立豊玉東小学校 校長 吉羽哲夫

研究経過

・平成27年度・

右数字は頁

4月30日	研究全体会	...	2
6月24日	各分科会		
7月15日	2年「まちは たからばこ」	(... 35)	
9月9日	校内全体会		
10月7日	6年「豊東アニメーション」	(... 35)	
11月9日	4年「すごいぞ 豊玉の伝統の技 ~東京手描友禅のすごさを伝えよう~」	6	
11月25日	5年「伝えよう わたしたちの町 ~豊玉・江古田~」	...	10
12月15日	1年「あきと ともだちになろう」	...	13
1月21日	3年「すごい練馬の農業 ~練馬の農業を広め隊~」	...	14
2月10日	各分科会		

・平成28年度・

4月19日	研究全体会 講演	...	16
5月12日	3年「すてき発見! 練馬大根調査隊」	...	28
5月25日	5年「大学の町、江古田探検隊」	...	20
6月8日	6年「みんなの思い伝え隊 ~移動教室~」	...	22
6月21日	1年「しぜんと ともだちになろう~がっこうのしぜんたんけんをしよう~」	26	
6月29日	4年「わたしたちも地域の一員 ~地域行事に協力しよう~」	...	30
7月6日	2年「みんなわくわく たんけんたい~まちが大すきたんけんたい~」	32	
9月14日	研究全体会分科会		
11月2日	研究全体会		
12月22日	研究全体会		
1月26日	練馬区教育委員会 教育課題研究指定校 研究発表会		

補注 ... 34

平成 27 年 4 月 30 日

練馬区立豊玉東小学校 校内研究会より

研究主題 「 地域の一員として、誇りをもって学ぶ児童の育成 」
～ アクティブ・ラーニングによる指導を生かして ～

寺崎先生を講師にお招きして、2 年間、研究に取り組む予定でスタートしました。

第 1 回は、「アクティブ・ラーニングの現状と授業づくり」という内容でお話をいただきました。

資料の一部

アクティブ・ラーニングの指導のポイント 10 と配慮事項

- 1 問題解決的な学習過程を重視する……各教科などではその特性に応じた問題解決的な学習を重視している。これを踏まえて子供が問題解決の学習経験を豊富にもてるように指導計画、学習指導案を立て指導を工夫する。
- 2 体験的な学習を取り入れる……子供が受け身の座学ではなく、自ら課題をもち、学習対象、教材である人物、事象に直接関わる活動を可能な限り取り入れるようにする。指導にあたっては、時間、準備や環境構成、関係機関や関係者との連携、指導体制などに配慮に手間がかかることから計画を綿密に立てるようにする。
- 3 学び合い・協働的な学習を取り入れる……子供同士や子供とゲストティーチャー等との学び合いの活動では、教師はコーディネーターなどの役割をし、子供たちが学びの過程を自分で歩み、成果を自分たちでまとめていくよう支援する。
- 4 探究的な学習となるようにする……導入や第一小单元などで設定した学習課題の解決過程から新たな課題を発見し、更にそれらを追究していくように指導する。特に総合的な学習の時間では問題解決の過程がスパイラルに展開していくことを大切にする。
- 5 子供の興味・関心、問いや疑問を生かすようにする……子供の主体的な学びが成立し発展するためには、子供の実態や学習能力等を指導を通して把握する。学習対象や教材等から子供の問いや疑問を引き出し、それを生かした学習となるようにする。
- 6 教材・学習材を工夫する……知識・理解を教えるための教材とともに、子供が自ら知識・理解を求め身に付けていくための学習材を工夫する。教師が提示したのから子供が学習材を見いだしたり、自分たちで材料を収集したりすることを大切にする。
- 7 基礎的・基本的な知識・技能の活用を取り入れる……学年進行により学習経験は積み上げられる。これらを活用すれば自分の力で学習の課題・問題の解決に取り組めることを実感できるようにする。教科学習での既習事項を活用する体験を大切にする。
- 8 自己評価や相互評価等を重視しよさや進歩の自覚につながるようにする……教師の評価によるよさや進歩の肯定的評価に加えて、自己評価や相互評価の機会を多く取り入れてメタ認知の能力を高め、自信や意欲が高まるようにする。
- 9 授業では指導者と支援者やファシリテーターの役割を使い分ける……学習事項を習得させる場面では指導者・ティーチャーとして、子供の主体的な学びを重視する際には支援者・ファシリテーター等としてなど、学習の状況に応じたハイブリッドな指導ができるように力量を高める。
- 10 アクティブ・ラーニングについての指導や協力・連携の体制を確立する……授業の質を高めるために取り組むべき課題を明確にし、学校挙げて教師自らアクティブ・ラーニングを実践する。そのための研究・研修もアクティブ・ラーニングを取り入れてその手法を身に付ける。また、家庭や地域の人々の協力・連携が得られるようにする。

<寺崎先生より> たいへん遅くなりましたが、校内研究の際の質問への回答を送ります。皆さんに配布方、よろしく願います。

Q 1 1年生では、生活科のどんなことから学習のスキルを始めるのが有効ですか。

A まずは、何のために何を学習させるのか、身に付けさせるのかを明確にしましょう。生活科では、これまでの生活経験や学習経験を引き出し、生かすことができるようにします。国語の学習での言語活動の経験は特に活用することができます。1年から6年の国語の教科書に目を通すとともに、「小学校学習指導要領解説 国語編」の「各学年の目標及び内容系統表」を把握しておきましょう。

Q 2 1年生の研究授業において主体的な学びを生かしながら、生活科の授業を構成するには、何に重点を置けばよいでしょうか。

A 子供の思いや願い、考えを引き出すことからはじめ、行き詰まったら教師が児童と相談し、それが実現する方向に支え・援助していくことです。このことは教師中心に進めるのではないことから、時間がかかりますが、子供は確実に自分から、自分たちでやるように変わっていきます。

Q 3 2年生の研究授業を「まち探検」にする予定です。最終的には地域の人たちを呼んで来ていただくことやお礼を伝え発表会をしたいのですが、子供が違うことをしたいとなったら計画を変更した方がよいですか。教師の方でまとめてはいけないとおっしゃったので伺います。

A 段取りとして学習活動の過程で地域の人たちとできるだけ深く関わるようにしていくことが必要です。「ぶらぶら探検」「お訪ね（尋ね）探検」「お手伝い探検」などと関わりを深くしていくと、期待する発表会に目が向くことでしょう。また、地域の人たちからも、見たい、聞きたいという要望がきていることを伝えるのもよいでしょう。繰り返し体験していくと、そこに愛着が湧いてきます。

Q 4 学習のまとめはどんな形であるのがよいでしょうか？

A 学習のまとめは、各教科でやっていますね。「まとめ」とは「ばらばらだったものを一つの整った状態にする」（広辞苑）ということで、いろいろと出た考えや意見を整理して分かったことや課題として残ったことを明らかにすることです。生活科や総合的な学習の時間では各教科等でのまとめの学習経験を活用してできるだけ自分たちの力でまとめていくよう教師が手助けや支援をしていくように配慮します。

Q 5 子供の探究心が高まる指導の工夫には、どのような方法が具体的にありますか。

A まず、日頃の各教科の授業において「問い」や「疑問」、そして「質問」を出させるようにすることです。基礎・基本は教科での指導です。

次に、生活科や総合的な学習の時間では、学習対象に係わる機会を多くもつことです。いろいろなものが見え、分かってくると新たな疑問や問いが湧いてきます。それを大切にすることです。（記録やノートに書いておきます。）

そして、全ての学習で「分かって終わり」だけでなく、「分からないこと」「もっと分かりたいこと」を引き出すことに配慮します。

Q 6 生活科、総合的な学習の時間、 人材確保、 保護者と教員のギャップ、 活動時間、 基礎を固める時間について教えてください。

A 時間・・・生活科、総合的な学習の時間とも、他の教科等よりも自校の時間計画を立てやすいので、そのよさを活用します。ストーリー性、繰り返しの体験など工夫します。
人材確保・・・人材調査をして人材マップや人材銀行をつくっておきます。 ... 補注1
ギャップ・・・生活科や総合的な学習の時間の特性やその効果を何度も具体的に説明します。今日、その重要性を理解する保護者が多くなっています。
活動時間・・・時間計画を子供たちと一緒に立てます。時間には限りがありその枠内で計画を立てることを1年生から積み上げていきます。
基礎を固める時間・・・学校の教育課程でどう取り組むか、みんなで工夫しみんなで取り組みます。

Q 7 アクティブ・ラーニングの考え方と研究主題との関連と整合性を研究スタート前に明確にし、共通理解しておく必要があるのではないのでしょうか。

A 大切なことです。一方、完璧を求めず、現段階での仮説として設定し、研究の進行と深まりの過程で実践を通しながら改善し理解を深めていくのがよいのではないのでしょうか。

Q 8 具体的に地域の思いを生かした授業にどうつなげていくのでしょうか。

A 地域の人々の思いを地域の人々とのコミュニケーションの中で探っていきましょう。人、物、施設・設備、諸事象、行事等々、多彩にあるものをよく理解すると、教材として生かす事象、対象、人材等が見えてきます。(石神井小の実践例があります。) ... 補注2

Q 9 カリキュラム・マネジメントについて教えてください。

A カリキュラム・マネジメントとは、教育課程・指導計画の編成・作成、実施、評価、改善(いわゆるPDCA)を行い、教育の質を高めていくことです。足元では、教育課程・指導計画に基づく週案の作成 授業の実施 評価に始まり、授業改善、指導計画の改善、教育課程の改善へとつなげます。さらに学校評価へと広げ、学校の教育活動、学校運営等の教育諸条件の改善につなげます。これらすべてをカリキュラム・マネジメントと言います。

Q 10 アクティブ・ラーニングとは具体的にどういうことなのか、あまりイメージができていません。(普段やっていることなのに、やれている感が少ない。できていないということでしょうか。)

A アクティブ・ラーニングは現行の教育課程でも重視していることです。しかし、各教科での「活用」の指導、総合的な学習の時間などでの「探究的な学習」の指導はまだまだというところです。これらを充実させ指導の質を高めていくことがこの研究のねらいでもあります。

Q 11 今までの授業でやっていたことと新しく取り入れる指導との違いがよく分かりません。具体的にどのようなことをどのように工夫していくことに心掛けたらよいのでしょうか。

A アクティブ・ラーニングとして現行の教育課程で重視されている指導を実際に行っているかを、まず見直してみましょう。やるべきことは以下の指導です。

- 各教科等で基礎的・基本的な知識・技能を活用する指導
- 身に付けた基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習の指導
- 生活科や総合的な学習の時間などでの探究的な学習や協同的な学習の指導
- 子供の自主的、自発的な学習を促す指導
- 子供の言語活動を充実させる指導（＝思考力・判断力・表現力を高める指導）
- 学習の見通しと振り返りの指導
- 個に応じた指導

これらはみな関連しています。現学習指導要領の教育課程が全面実施されて既に5年目、移行措置期間を含めると7年目になります。ここでしっかりと教員一人一人が力を伸ばしましょう。

Q 1 2 対話をして一人一人の評価など、容易にできそうにありません。評価について教えてください。

A 評価は一人一人を見取ることが基本ですが、どの教科等の場合でも1時間の中で全員を完全に見取することは不可能と言えるでしょう。なぜなら一人一人の学びの状況、生活経験、更には発達段階に差があることは皆さんが経験で知っている通りです。

したがって、一人一人を観察する際に評価規準（基準）を基にどこまで見取れたかを把握し、見取れない場合はどうするかを考えておくことです。（例：子供の作品や振り返り）また、生活科や総合的な学習の時間では、中・長期的な目で子供の変化・変容を見取することも大切です。

いずれにしても、評価の観点、評価する活動、評価規準（基準）評価方法、評価記録、評価後の指導の手だてなどを指導計画・学習指導案に位置付けて、指導と評価を一体的に行うことが基本です。これをしっかりと繰り返していくと教師の評価能力は向上していきます。すなわち、子供を見る目が確かになり指導力が向上します。

Q 1 3 今までの調べ学習とアクティブ・ラーニングの違いはどこにありますか。どこまで教えて、そこからどのように学ばせていくのですか。（特に知らなかったことに対して、まず多くを教えないといけなさそうなので心配です。）

A 生活科、総合的な学習の時間のさせ方と他の教科の学習のさせ方には違いがあります。生活科、総合的な学習の時間では、教師は「聞いて・助けて・任せて・見守る」支援を中心にした指導で、言わば子供が主役となるようにします。一方、他の教科では、教師は「与えて・させて・見回る」指導が中心で子供に教えることが仕事です。生活科・総合的な学習の時間は、他の教科等で教師の指導で学び、身に付けたことを自分で活用して学ぶことが中心です。

ですから、今までの調べ学習と違うのは、教師に教えてもらった調べ学習の方法を自分で活用して調べるということです。したがって、教えるのは活用も含めて教科指導できちんと指導しておきます。それも可能な限りアクティブ・ラーニングとなるようにです。

Q 1 4 地域の大学と連携したいと考えています。どうつながればよいでしょう。手だてはありますか。

A まず、大学そのもののことをよく調べることです。その上で連携できそうなことを探ります。大学のどの人とつながりをつくれればよいか、誰か中心になってコーディネートしてくれる人が見つかるとういのですが、まずは声掛けから始めましょう。つながり、ネットワークづくりは人からです。

平成 27 年 11 月 9 日 4 年 「すごいぞ 豊玉の伝統の技」
～ 東京手描友禅のすごさを伝えよう～

【授業ダイジェスト】

東京都の伝統工芸である「東京手描友禅」を学習材として取り上げた。地域に住む実際の職人の方に本物の着物をお借りして、単元の導入で児童に提示した。それを間近に見た児童が様々な思いや疑問をもち、そこから、自分が調べてみたい課題を設定できるようにした。

【授業で、児童は…】

本物の「東京手描友禅」の着物を見るのは初めてであるという児童がほとんどだった。児童からは、「こんなきれいな着物は初めて見た。」「着物の生地がなめらかで、絵がすごく細かく描かれている。」「どうやってこの着物は作られているのかな。」など、様々なつづやきが聞かれ、着物について調べてみたいという児童の意欲が高まった。

教師も学区域内に「東京手描友禅」の職人の方がおられることは全く知らなかった。そうした中で、偶然、職人の方の存在を知ることができ、協力をお願いしたところ、快く協力していただくことができた。この職人の方がいなければ、本単元を実施することはできなかった。そうした地域の人材を見付けることの大切さを実感した。

< 寺崎先生より >

- 今回みなさんが学んだことは、「ペアやトリオの活用」「振り返りの必要性」「体験的な活動の大切さ」「教科で過去に学習したツールを生かすこと」「子供の思いや考えを聞くこと」「子供の思いや考えを引き出す工夫」「課題設定の経験」「児童の発言、発想の価値付け」「実物の用意」「教師の立ち位置」「授業スタイルの変換」「教材の提示の仕方」「じっと我慢し任せる。平素の教科指導の中で耕す。」「基礎的な力を普段の授業で付けさせる」などです。多くのことが学ばれています。
- 以下の回答は一つの考え方であり十分ではないと思います。参考にさせていただき、さらに何かあれば質問を重ねてください。

Q 1 生活科は教科学習になるので、教師が決めた枠の中で児童の活動を行ってよいのでしょうか。
(学習計画の構成なども含めて)

A 生活科は教科ですが、指導の仕方は他の教科とは一線を画しています。教師が決めた枠(指導計画)を子供にあてがって活動させるものではありません。計画は予想として構想しますが、学習対象との出会いから子供がもつ思いや願いを大切にして活動を子供と共につくっていきます。その際、無理なことやできないことは子供に伝え、再考させることはあります。可能なことであればできるだけ実現できるように支援していきます。したがって当初の指導計画と違ってくることもあります。教材研究や児童理解が深ければ指導計画と大きくずれることはないと思います。「与えて・させて・見回る」から「聞いて・助けて・任せて・見守る」ができるように指導計画を工夫してみましょう。

Q 2 調べたいと思わせることが難しいです。教材との出会いの後、課題をもたせるまでの流れはどのようにしたらよいか教えてください。

A 子供が計画している学習課題や取り上げる学習対象、そこで学ばせたい学習事項にどの程度興味・関心をもっているかを把握することがまず必要です。学習対象（教材）に一度出会うだけでは課題をもつまでには至らないでしょう。そこが教科学習と違うところです。教科では教師がいると工夫して導入で課題をもたせますが、総合的な学習の時間では子供が教師の支援を受けながら自分、自分たちで課題を発見したりつくったりします。ですから時間が必要なのです。数時間かかる場合もあり、第一単元（第一サイクル）を課題の発見にあてる実践も見られます。

対象との出会いから個々が感じた疑問や質問などを出し合い、さらにより対象に関わり課題を明らかにしていく過程を大切にしていきたいと思います。

Q 3 子供たちの考えを教師が整理していくと教師主導の流れになってしまうとのことで子供に整理させたいが、最後にそれはどうまとめればよいのでしょうか。

A 子供が整理するということは、集めた情報を整理し分析することであり、そこから何が分かるか、見えるかをはっきりさせることです。したがって教師はそれを子供に問い掛け、時に質問し、時にその内容を認めたり褒めたりすることになるでしょう。

場合によっては、「君たちの言いたいことはこういうことですか。」と確認することも必要でしょう。整理・分析が不足していればその点を指摘し、今後どうすればよいかを一緒に考え相談するようにします。したがって、最後に教師がまとめる必要はありません。ここが教科の学習との違いです。子供が自分の力でまとめるのです。

Q 4 児童主導で進んでいく単元の学習過程（単元計画）の在り方は、どのようなものになるのでしょうか。（それでもやはりゴールありきなのでしょうか。）

A 総合的な学習の時間も、体験的な学習や各教科で学んだ知識・技能を活用した問題解決的な学習であり、言語活動の充実を意図する学習です。これらが含まれた自発的・自主的な学習過程となります。各教科では教科の特性に応じた既習の知識・技能を活用した問題解決的な学習を重視しています。総合的な学習の時間では取り上げる内容に応じた問題解決の過程を選択することになりますが、情報教育の視点から「課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・発信」を例示しています。これも事例ですからこの通りやる必要はありませんが、子供の活動の自然な流れとして、こうした学習過程になっているようです。ゴールは、「～をつくらう」などの実現型ではある程度イメージをもてる場合がありますが、「～を調べて何をしたらよいか考えよう」などという解決型の場合は学習活動の進展にしたがってゴールが見えてくることとなります。教師はゴールイメージをある程度予測しているとしても、子供は学習活動の進展にしたがって、はっきりしてくるといったほうがよいでしょう。

Q 5 多様な疑問や発想が生まれ時間の中で授業が終わらなかつたり活動が多様になり過ぎたりしたとき、どのように修正していったらよいのでしょうか。例えば、手描き友禅を体験する子、織物を体験する子、染め物をしたがる子がいた場合は、全部できるのでしょうか。

A 教材研究の段階で、学習対象にどの程度関わるかが明らかになります。それによって可能な学習活動がはっきりし、計画を立てることになります。多様な発想や疑問を大切にすることから出発することは大切なことです。しかし、現実には相手がいることですから限界があります。その点はきちんと子供に説明して納得させ、代案として何ができるかを一緒に考えるようにします。

Q6 今年度研究1年目で「聞いて、助けて、任せて、見守る」のを全て実践するのは難しいかと思います。まず、今年は何に重点を置いて校内研究を進めていったらよいでしょうか。

A その通りで確かに難しいです。特に高学年はこれまでの積み上げが十分ではないのでどこでも困っています。先生方は子供に教えたくて先生になったのですから、「教えない」「自ら学ぶようにする」などといった戸惑うことは必定です。しかし、今は「教える」だけではなく「活用」や「探究」の指導もできることが先生の専門性です。難しいけれど、研究推進の過程で変わっていく先生がいることはこれまでの経験から確かです。そして2～3年するとほとんどの先生が変わっていきます。それは自ら変わろうと努める先生、力量を高めようとする先生方です。できそうなところから一歩ずつ、一つずつです。これまでの日本の教育の仕方を大きく転換するのですから難しいことは分かっていますが、子供の未来のためのチャレンジです。

どうせやるのなら楽しくやることです。一番楽しくなるのは子供が確実に育って来るのが見えるようになることです。本校は特別活動(学級活動)の研究^{補注3}をして、その素地はもっているはずですが、学級活動は生活づくりを対象にしますが、総合的な学習の時間は知の学習づくりを対象にします。取組の方法は似ているのです。是非、特別活動の経験を活用・応用してください。

経験のないことはできない。では子供はどうでしょう。毎日新しいことを学んでいます。だとすればできないということになります。では何故できるのでしょうか。それは新しいことも既習経験や既習事項を活用すれば学びとれるということを経験しているからです。教科学習は教師の指導や助言で新しい経験を積んでいきますが、総合的な学習の時間はそれを自分の力でやってみるようになります。先生方は教科学習において、自分でやれるように、すなわち任せられるように指導しているはずなのです。子供は自分の力で、自分でやるから面白いのです。その面白さを味わわせてやって下さい。

本研究では、6年生の授業(^{補注4}:27年10月の授業)で教科指導と総合的な学習の時間の指導の違いや発展を学びました。4年生の授業で子供から引き出し任せてみようとする教師の構えが見えるとともにその具体的な指導の課題を学びました。このように一歩一歩進化しているのです。

これが研究実践です。先が楽しみです。

Q7 今日の授業のように、子供の調べたいことや課題がたくさん出てきたときに、最後にどうまとめていくのがよいでしょうか。

A 出てきたら子供と相談しましょう。教師からは相手のあることなのではじめから不可能なこと、時間的に無理なこと、金銭の問題、活動場所の問題などを説明したり助言したりして学習活動を可能なものに絞りこんでいきます。その際、子供の考え・アイデアを大切に、それを引き出し、子供自身がまとめていくようにファシリテーター役になるようにします。

Q 8 平成32年の大学入試も変わり、アクティブ・ラーニングに重きを置く中学校、高校が増えています。義務教育においてそのゴールはどこか教えていただきたいです。(ゴールから逆算してみたい。)

A アクティブ・ラーニングがもっとも課題になるのは高校です。大学入試改革と絡めた高校の授業改革のためといっても過言ではありません。義務教育では既にアクティブ・ラーニングはこれまで言葉こそ使っていませんが取り入れられているのです。

問題は、十分に指導できる教師が5%程度しかいないこと(本研究所の調査)補注5と、知識・理解を重視することから資質・能力の育成を重視するよう方向転換が行われるということです。これらのゴールは平成28年度末に改訂される新学習指導要領に示されることでしょう。この8月26日に中央教育審議会・教育課程企画特別部会から出された「論点整理」はその方向性と視点を示したもので、11月中旬から各校種、各教科等別のワーキング・グループの検討が「論点整理」を土台にして始まっています。その内容は逐次インターネットで公表されます。とりあえずは冬休み当たりに「論点整理」を読んでおくといえでしょう。キーワードは「社会に開かれた教育課程」「アクティブ・ラーニング」「カリキュラム・マネジメント」などです。

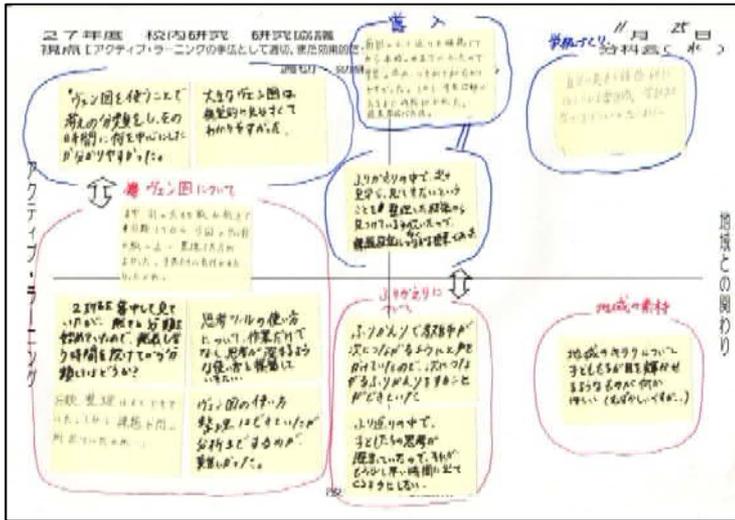
Q 9 子供に任せる授業スタイルは、そうたやすくいつでも誰にでもできるというわけではないように思いました。日々の指導で、どのようなことが必要となってくるのでしょうか。

A 「任せる」のは総合的な学習の時間が中心で教科学習では活用の部分です。「任せる」つまり自分たちでやるということは、自分たちでやれるようにしてあるということです。それができていなければ難しいですね。基礎的・基本的な知識・技能を習得させる授業は、そこで身に付ける知識・技能が次の段階で活用されることを見通して指導を行うことが必要なのです。教科学習での活用は全ての教師が当然のようにできることが求められていることを確認し、その力量をこの研究を通してみんなで高めていきましょう。

冒頭の「学んだこと」でみなさんがそれに気付かれていることがわかり、力強いです。

を系統的に指導することは取り上げていませんので、自分の学校で教育課程に位置付けることになります。(目白小補注6)の資料を参照)次期学習指導要領改訂では取り上げられると思います。

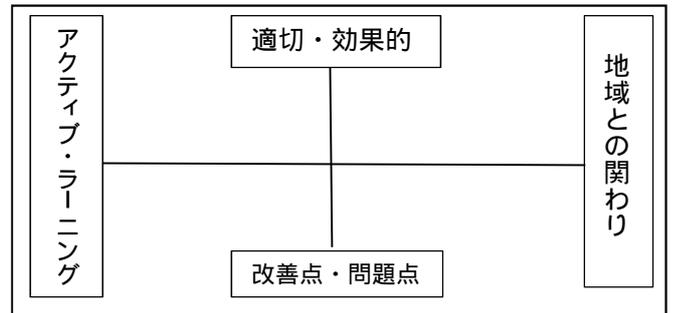
[本校の研究協議で活用した思考ツール]



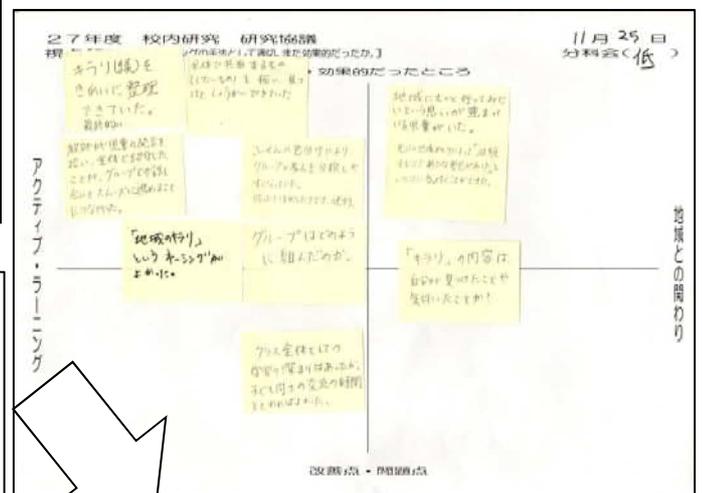
中学年分科会から出されたもの



高学年分科会から出されたもの

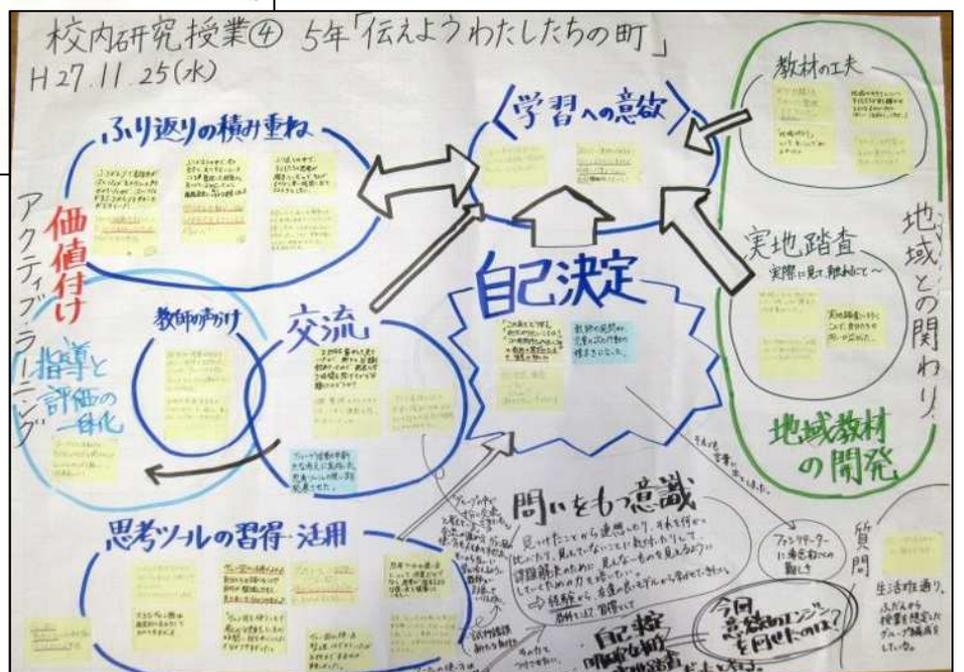


各自の付箋は上の座標軸の中に位置づけて検討



低学年分科会から出されたもの

ワークショップ形式で各分科会において協議したものを、推進委員会でまとめました。



Q 2 「児童が何を話し合っているか把握するのはテーマだけでよい。」とおっしゃいましたが、そのことについて詳しく知りたいです。

A テーマだけということは、テーマを観点にし、それについての評価規準をもって話を聞き取るということです。それ以外のことは聞き流してもよいと思います。もし気になることがあれば聞き取って記録することはよいと思います。実際には全てを聞き取ることはいけませんし、テーマに沿って話し合っているか、その内容はどのようなものか、個々がどんな発言をしているかななどを短い時間で聞き取るには観点を定めることが必要だと思います。

Q 3 児童の発言の取り上げ方、振り返りの仕方、まとめ方は、どのようなパターンがあるのでしょうか。

A これらの指導は各教科の指導において今までにも基本として取り扱っていると思います。決められたパターンというのではないと思います。要はその時点や場面において何を大事にするのか、ねらいや評価規準をもとに押さえたりまとめたりすることになると思います。

例えば、発言の取り上げ方には、全部を取り上げ生かそうとする場合、ねらいにそった発言だけを取り上げ注目させる場合、時間を区切って取り上げる場合、指名した子供の発言だけを取り上げる場合等々いろいろです。発言を取り上げるねらい、それらをどう生かすのかのねらいを明確にもって行うことが必要です。

Q 4 グループの中での発見やつぶやきの見取り聞き取りができない場合、評価するときはどうしたらよいのでしょうか。

A どうしたらよいかを予め考えておくことも必要です。どの評価方法も完璧に全員を評価することは難しいでしょう。ですから、複数の評価方法を考えて多面的に評価し、それらを総合して評価していくことが必要でしょう。見取り・聞き取りした範囲でしかできないのですから、それ以外の、自己評価や相互評価なども活用します。

生活科や総合的な学習の時間では、長い目で見ると評価も大切ですから、今回捉えられなければ、次回の機会に注視して捉えるようにするという教師の構えも大切です。

Q 5 各教科の内容との関連付けがアクティブ・ラーニングには必要不可欠であることは分かりました。論点を整理して学習を進めるには様々な方法があることも分かりました。では校内でその方法を共有するには、発達段階別にどう留意すればよいのでしょうか。

A 発達段階というよりは教育課程では学年段階ということになるでしょう。一番大切なことは教育課程・指導計画（カリキュラム）に位置付けることです。各学年の各教科等のいつ、どこで、どのようにその指導を行うのかを学習指導要領や教科書（教材）で確認し、それらを教育課程・指導計画に位置付けておくことです。教育課程・指導計画は共通理解、共有の原点です。

平成 27 年 12 月 15 日 1 年「あきと ともだちになろう」

【授業ダイジェスト】

秋に採集した木の葉や木の実を使ったお店を児童が考え、本番に向けてクラスで発表練習を行った。児童同士でアドバイスをする時間を設け、お店で工夫したことや改善した方がよいことなどを伝え合った。

【授業で、児童は...】

遊びの説明をする際に、伝える相手を意識して説明していたが、本当に児童の頭に相手が浮かんでいたのが疑問であった。授業の導入で、「誰に自分のお店に来てほしい？」と投げかけ、意識をもたせる必要があった。

<寺崎先生より>

- 今回みなさんが学んだこととして、「子供に任せる場面や状況」「評価基準に基づく見取り」「5とり（見とる・聞きたる・読みとる・感じとる・汲みとる）」「自己決定」「テーマと発達段階」「観察力・評価能力」「児童の意欲（エンジンとガソリン）」「ラーニング＝学習内容」「意識付け・動機付け」などが出されました。生活科のみならず学習指導の基本に迫る視点です。今後につなげてください。
- 以下の回答は一つの考え方であり十分ではないと思います。参考にさせていただき、さらに何かあれば質問を重ねてください。

- Q1 学習指導案の形式はどのようにすればよいですか。学校として揃えられるとよいと思うのですが。
- A そのとおりですね。学習指導案の形式はこれではなくてはいけないというものはありません。ただ教育界の長年の経験の中で基本的なものは踏襲されていますが、具体的にはそれぞれの学校がこれまでのものを参考にしながら工夫しています。本校でもこれまで各学年が工夫したことを一覧にして、研究の視点からわかりやすい形式に作ったらよいと思います。そして2年目は生活科、総合的な学習の時間それぞれを揃えたらどうでしょうか。そのときに研究の視点の4つをどう学習指導案に盛り込むかを工夫したらどうでしょうか。

- Q2 1年生は経験が少ないのでどこまで教師が引っ張ってよいか、どうしても迷ってしまいます。子供に任せる場面や状況をもっとつくれるようにしていきたいと思いますが、ご助言をお願いします。
- A それでよいと思います。その考えや構えが大切ですね。

子供は常に学習し成長し変容しています。極端に言えば、昨日までとは違っているとも言えます。生活科では、まず引き出す（ファシリテート）ことを試みてみましょう。そして、出てきた発想や考えを自分たちで、つないだり生かしたりしていくように支援していきます。

反応が無かったり出てこなかったりしたときは引っ張ることを試みることに転換し、出てきたらそれをもとにまた引き出すようにしてみるといいのではないかと思います。引き出すことに戻すことです。

基本は「引き出す」ことです。引き出し方（発問）を工夫してみましょう。また、子供は何かをもっているということを信じてみましょう。

平成 28 年 1 月 21 日 3 年「すごい練馬の農業～練馬の農業を広め隊～」

【授業ダイジェスト】

練馬大根を育てたり、練馬の農家の方にお話を聞いたりすることを通して、児童は練馬の農業はすごいと感じ、それを地域の人に伝えたいと思うようになった。そこで「すごい練馬の農業発表会」に向けて準備を進めた。

【授業で、児童は...】

発表方法は模造紙にまとめるだけでなく、ペープサートや劇など様々な方法で発表準備をしていた。本時では、発表がよりよくなるように、活発にグループ同士で交流が行われ、アドバイスをし合うことができた。しかし、発表技術に関わるアドバイスは多く出されていたが、内容の質の高まるアドバイスはあまりなされなかったところが課題であった。

<寺崎先生より>

○今回みなさんが学んだこととして、「興味や関心を引き出す発問の工夫」「質問や問いを出させることの大切さとそのための発問の工夫」など、子供の問いを引き出すことの必要性や発問の大切さが多く出されていました。また、「指導計画の組み方」「総合的な学習の時間と他教科との関連」「社会科と総合的な学習の時間との違い」など教育課程に関すること、「学習の振り返りと評価基準」「相互評価のポイント」など評価に関することなどが出されていました。先生方の視野が広がっているように思います。

○以下の回答は一つの考え方であり十分ではないと思います。参考にさせていただき、さらに何かあれば質問を重ねてください。

Q 1 学習の積み重ねの保存の仕方について教えてください。例えば、毎時間の学習の振り返りなどをためていく方法は何がよいでしょうか。(他教科と同様とは思いますが、特にこれが使いやすいというお勧めがあれば教えていただきたいと思います。)

A いわゆるポートフォリオの方法がよく見られます。最初のペーパーに貼り足して行く方法、総合的な学習の時間のノートに貼っていく方法、ファイルに綴じていく方法、ボックスに入れていく方法などいろいろです。学校として1年生から6年生までどのように積み重ねるか、指導の一貫性を工夫するとよいと思います。

ポートフォリオのよさは、それを使って振り返りができること、他者と見せ合うこともできることがあります。また、ポートフォリオをする際に自分なりの基準をもって綴じるものを選択して質のよいものを残すというやり方をすることもできます。

Q 2 2年目の発表の際に、1年目の単元の内容、成果物はどのように活用するのがよいでしょうか。掲示資料や協議会後のまとめ(ウェブマップのようにまとめたもの《p.11参照》[補注7](#))等がありますが、活用の余地があるとしたらどのようにしたらよいでしょうか。

A 研究の1年目は基本的に研究主題や研究内容の明確化、それに伴って研究仮説の明確化と具体化、それらに基づく指導内容・教材の工夫や学習活動の工夫などを授業研究を通してながら実証していきます。2年目は、明確となった仮説をもとにこれを具体化して授業で実証し指導計画や指導法の改善・向上を図ります。ですから2年目の研究内容や実践が発表の対象となり、公開授業や研究発表で示すこととなります。したがって1年目の内容、成果物は2年目に至る経過として欠かせないものや重要な位置付けになるものを提示することとなります。ウェブマップを活用したアクティブ・ラーニングによる研究が成果であれば、研究方法として発表の対象にすることはよいことだと思います。提示資料についても同様です。

Q3 子供のアクティブさに引っ張られてしまい、なかなか知的な内容が得られませんでした。どこで軌道修正したらよかったですでしょうか。

A 活動後や1サイクル後の振り返りにおいて、子供自身の振り返りの内容をもとに、教師が見た振り返り、学習の意味付けや価値付けを伝えたらどうでしょうか。評価基準は「学習課題」や学習のめあて、自分たちの課題です。それを通して、先生が考える「知的な内容」との違いや期待外れなどを伝えたらどうでしょうか。子供がやっていることを否定するのではなく、「まだ足りない、もっとできるはずだ、君たちの力を発揮していない、この程度で満足しているの。」などを伝えて、刺激を与えたらどうでしょうか。知的な内容や知的な刺激は教科学習での学びと大きく関係しています。この点についても関連を図るように工夫していきましょう。

Q4 教科学習から総合的な学習へアクティブになる時間であることを子供にわからせるスイッチの切り換え方を知りたいと思います。子供のアクティブのスイッチを入れる方法は何かありますか。

A アクティブになるのは総合的な学習の時間だけではありません。教科学習もアクティブ・ラーニングで学びます。ただし、教科学習では教師の指導性が総合的な学習の時間より強く表れます。しかし、問題解決的な学習、体験的な学習、活用の学習、言語活動の充実などが大いに取り入れられています。総合的な学習の時間になれば、それらを子供主体に進めることとなります。ですから「さあ、次の時間は総合的な学習の時間だ。」と思うだけでスイッチが入り、どんどん自分たちでやろうとする姿が見えることが望ましいことです。

中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」(平成27年8月26日)では、アクティブ・ラーニングの指導の視点として以下の3点を示しています。

習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭においた深い学びの過程が実現できているかどうか。

他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。

子供たちが見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

これらは今後の授業改善の視点になると思います。

平成 28 年 4 月 19 日 校内研究会より

研究主題 地域の一員として誇りをもって学ぶ児童
～ アクティブ・ラーニングによる指導を生かして～

< 寺崎先生より >

- 今回みなさんが学んだこととして出されたことは、「資質・能力を伸ばしていけるような活動ファシリテートをどのようにすればよいか」「学年に応じた系統性」「低学年・中学年・高学年の横のつながりと全体像の理解、共通理解」「地域教材の開発」「学校 地域 区 東京都 日本 世界へとなり、地域は世界の扉であること」「手だて・視点は他教科においても意識して指導」「世界の語り方 = 根拠のある説得力のあるものに」「研究の成果を見据えた取組」等々でした。研究の方向性が見えてきましたね。
- 以下の回答は一つの考え方であり十分ではないと思います。参考にさせていただき、さらに何かあれば質問を重ねてください。

Q 1 児童の実態を掴むアンケートについて、アドバイスをお願いします。

今年度はじめに、地域に関する意識調査と学習に関する意識調査を実施するので、アンケートの項目等について教えていただきたいと思います。

アンケートの内容について、低・中・高学年でどのようなつながりをもてるようにするとよいでしょうか。

- A 前回終了前に相談しましたが、参考例を持参しましたので、項目は本校で検討して下さい。研究がねらう子供像と低学年・中学年・高学年の子供像を視点にして、その状況が読み取れる内容になるよう工夫してみましょう。

Q 2 3年生の初めての総合的な学習の時間への出会わせ方が分からず、思案しています。

- A まず、子供たちが「総合的な学習の時間」にどのようなイメージをもっているか聞いて引き出してみましょう。イメージマップなどにまとめてみたらどうでしょう。

導入では、それを生かしながら、総合的な学習の時間について国語や算数の学習を思い出させながら比較的しながら説明していきます。

○国語、算数、社会、理科には教科書があるけれど、総合的な学習の時間にはない。

○勉強する相手との出会いは先生が用意するけれど、それと関わりながら学習の課題は自分たちでつくる、決める。(教科の学習では学習課題は先生が示す。)

○学習課題をどうやって解決するか、方法・やり方を自分たちで決める。(教科学習では先生が指示する。)

○学習計画は先生があてがった時間内で自分たちで計画する。(教科学習では先生が学習計画を示す。)

- 学習の仲間をどうするか、自分たちで相談して決める。(教科学習では、だいたい先生がどんなグループでやるか決める。)
- 計画に沿って自分たちで調べたり、まとめたりする。その方法は、これまでに教科学習で学んで身に付けた知識や技能を使う。(教科学習では先生が示してくれる。)
- まとめたことをどのように発表したり発信したりするかを自分たちで相談して決めて自分たちでやる。(教科学習では先生の指示に沿って行う。)
- 本校ではどのような学習が予定されているか、各学年の主な単元を簡単に解説する。
- 以上のことを自分たちが中心になってやる。先生は相談や困ったときアドバイザーをする。以上から、総合的な学習の時間は一言で言えば、「自分たちでやる問題解決の勉強」ということが理解できると思います。

Q 3 学習を進めていく上で、子供たちの思いが学習指導案と違ってきた場合、学習指導案の内容を変えていってよいでしょうか。

- A 学習課題を変えないことが前提ですが、変えていってよいと思います。その際、子供たちにどのような論理があるのか、納得できるものかをよく聞いて話し合ひましょう。根拠があり見通しが立っているのなら(思い付きでないのなら)任せてもよいでしょう。学習課題(何を解決するのか)を忘れない、見失わないようにアドバイスしましょう。

Q 4 地域の捉え方の段階について、上位概念・下位概念があるのでしょうか。足元<東京<日本のような関係で捉えていってよいのでしょうか。

- A 「地域」とはエリアの概念ですから、広がりや程度として捉えるのが一般的だと思います。後者でよいと思います。

Q 5 地域の後段の話について、6年で地域を支える人に対象をもってくると「区 東京都 日本 世界」と広げていくべきところを足元に戻ってしまうこともあるかと考えますが、これで大丈夫でしょうか。

- A その際の学習のねらいが6年生のこれまでの学習を踏まえるもの(国土や産業との関連、歴史、政治、福祉、国際理解などとの関連)であれば、大丈夫でしょう。足元でやるということは、自分の目、手、足を使い、体験的に問題解決できるということですから、むしろ望ましいことでしょう。また、見て、聞いて、調べてだけでなく、これらを生かして地域に参画していくことも期待できます。

平成 28 年 5 月 12 日 3 年「すてき発見！練馬大根調査隊」

【授業ダイジェスト】

まず児童が練馬大根について調べたことを付箋に書き出した。それぞれが集めてきた情報をグループで出し合うことで、似通った情報ごとに分類した。KJ法を活用し、情報を分類・グループ化した。

【授業で、児童は...】

児童が、調べたことをグループ化したことにより、課題が深まるのではなく、狭まってしまった。児童の思考の流れをスムーズにするためには、グループ化した際に、「今後、調べていく上で広げられそうな課題はどれ？」などの発問を投げかけるべきであった。

<寺崎先生より>

○今回みなさんが学んだこととして「大事な活動を一つに絞る」「活動を一つに絞って充実させる」など、学習活動の精選や重点化が多く出されていました。そのためにも授業の目標を視点にして教材を精選することが大切です。また、「振り返りの時間」についても多く出されていました。「振り返り」と「見通し」をつなげて学習をサイクル化するように、工夫していきましょう。この他に「導入での意欲付け」「思考ツール」「新たな問いが生まれる手だての工夫」「意欲を高めるための適切な段階(思考の流れ)」「アンケートから一步前進」「ねらい・課題＝学習の命」などが出されていました。いずれも「アクティブ・ラーニング」にアプローチする重要な視点・観点です。研究の進展を実感しました。

Q1 45分の授業の中で大事な活動を一つに絞ることが大切であることを学びましたが、学習指導案を作るとき、活動が一つしかないと不安になってしまうのも事実です。本当にこれだけでよいのかと思ってしまいます。

A 活動が二つ以上想定されるということは考えられることです。大事なことは、どちらがこの時間に重要か、ねらいに即したのかということです。二つ以上を同じように扱えばどちらも子供にとって時間が足りなくなり、中途半端になります。一つに絞るということは、重点を決めるということです。二つあれば並列にしないということです。ねらいに即してどちらが重要かを考えましょう。その一つにじっくりと取り組めるようにしましょう。

その辺りは教師の判断・決断です。



[3年授業風景 書きだした付箋を操作]

Q 2 「共同・協同・協働」の違いを教えてください。

A <国語辞典(「広辞苑」(岩波書店)6版)では>

「共同」・二人以上のものが力を合わせること。(協同と同義)

・二人以上の者が同一の資格でかかわること。

「協同」・ともに心と力を合わせ助け合って仕事をする事。

「協働」・協力して働くこと。

<国語辞典(「新明解国語辞典」(三省堂)では>

「共同」・二人以上の人仕事を一っしょにすること。

「協同」・二人以上の人力が合わせて仕事をする事。

「協働」・一つの目的を達成するために、各部分やメンバーが補完・協力しあうこと。

<現行学習指導要領では>

総則・「障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習」

総合的な学習の時間・「問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度」「他者と協同して問題を解決・・・」

<中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」(平成27年8月26日)では>

「本「論点整理」においては、従来「共同」又は「協同」を用いている固有の語を除き、よりよい地域社会づくり等の目的のために力を合わせる際などに使われる「協働」の語を用いること」としている。

Q 3 6年生は移動教室で関わる体験先の方々の思いを知るところから始めて、最後には地域の方々の思いを知り、何かしらの形にして返すという学習の展開(指導計画)で考えていますが、どうでしょうか。

A よいと思います。一方的な方向の関わりではなく、双方向的な関わりにすることが、関わりを深め、興味・関心や認識を深めることになるでしょう。体験先の人々の話や様子からどんなことが分かり、どんな思いが伝わってきたかを具体的に確認し合い、それをどう表現するか、そしてどう伝えるかをみんなで考えることが、学習の結果について何かしらの形で返そうという気持ちにつながるのではないのでしょうか。

この返し方もいろいろと考えを出し合って工夫することができるでしょう。(例えば、手紙、感謝カード、新聞、ビデオレター、寄せ書きなどなど)

平成 28 年 5 月 25 日 5 年「大学の町、江古田探検隊」

【授業ダイジェスト】

単元導入時に江古田駅の昔の写真を提示し、江古田駅周辺の現在の様子を現地調査した後の本時とした。駅周辺の過去と現在を比較し、疑問に思ったことやこれから調べたいことを付箋を用いてグループ毎に整理・分析した。次時の学習の見通しをもつために、振り返りに重点を置いた。

【授業で、児童は...】

江古田駅周辺の歴史に着目し、駅舎や周辺の様子の変化などに関心を寄せる児童が多かった。自由に整理しながら学習テーマ選びを行った。気付いたことを付箋に書き、相互での発見や疑問の整理・分析をすることができた。

<寺崎先生より>

○今回みなさんが学んだこと、明日から実践したいことで挙げられたことは次の通りです。

- ・グループ編成についてどのようにしたらよいのか気になっていましたが、「子供たちから出てくるほうがよい。」とのことでしたので、2年生の町探検では、なるべく取り入れられるようにしたいと思います。
- ・課題を広げ深めるということ子供に理解させるために、本時でも確認が必要ということ学びました。
- ・ファシリテーターとしてアドバイスするときは「～したら」ではなく、まずは「どういうこと？」と聞いてみる大切であることを再確認しました。
- ・子供が試行錯誤するときに、何を拠り所とするかはっきりさせ、自己決定していくようにすること、子どもの資質・能力を伸ばすことが主題となること、の二点を学びました。
- ・これからの見通しをもたせることを大切にすることが分かりました。
- ・常に子供に時間を意識させて活動させることとファシリテーターとなるためにアクティブな思考を活性化させる声掛け(「困ったら呼んでね。」「どうしたらよいと思うかな。」)を学びました。
- ・自己決定をもっとさせなくてはならないと分かりました。研究授業だからと、ついつい、こちらが決めたくなる場面が多いと考えがちですが、再度、この点を意識していきます。
- ・「自分たちで考えて書いた付箋と他の班の紙を見て書いた付箋は意味合いが違う。」という話に納得しました。
- ・時間を意識することや、今までどのようなことを学んできているのかということなど、全体を見渡すカリキュラム・マネジメントの重要性を感じました。
- ・児童は具体的で面白い疑問を多く出していました。質問してアドバイスするなど、声掛けを工夫していきたいと思いました。

以上、皆さんの授業や協議会からたくさんのお話を聞いていますね。これらを学校みんなのものにしていくと、子供たちは大きく変容していくことでしょう。これからが楽しみです。

Q 1 届けた教育課程にない校外活動を取り入れたい場合はどうすればよいでしょうか。

A 基本的には教育委員会に「教育課程変更届」を出します。大きく変えるのでなければ校長の判断・許可のもとに変更することになります。くれぐれも個々の判断で実施することのないようにしましょう。校外に出での活動にはそれなりに事前の実地調査や関係者との打合せ、教員間の協力・連携、往復の安全確保などの体制や配慮、時間割上の問題への対応などが必要だからです。

Q 2 課題別でグループを作るのがよいか、今日のようにグループの中で課題を決めるのがよいか、どちらがよいのでしょうか。

A これは一概にどちらとも言えません。課題を作る・設定する経験がある程度あれば、グループに任せてもよいでしょう。そうでない場合は、全体で教師の指導（支援）のもとで相談してつくってから、解決のためのグループをどうするか相談するということになるでしょう。高学年になれば、各教科等の学習経験を活用して、グループの中で課題を決めることを進めてもよいと思います。

いずれにしても、ここまでの学習経験がどの程度あるかということによります。

Q 3 グループで発言力の強い児童に振り回され、意思表示が難しそうな児童が困って立ち往生しそうなことが予想されますが、そこは、やはり児童に決めさせた方がよいのでしょうか。

A 実際に問題が生じていたり、生じそうであったりするのであれば、教師が関わる必要があります。これは、他教科や特別活動での指導と連動しますが、決めたことに全員が実践するという責任が生じるということです。また、そのためにリーダーは皆の意見をしっかりと聞いてまとめていく責任があるということです。

こうしたことは、言語活動としては国語で学習していますし、実践力としては特別活動で学習しています。リーダーシップとフォロワーシップの学習経験です。

また、道徳の時間でもその価値や意味を学んでいます。そうした資質・能力が育っているか、発揮できるか、あるいは我慢できるかなどを見取って指導・支援に当たるようにします。

総合的な学習の時間に指導するか、他教科等の時間に指導するかは、最終的に担任教師の判断でしょう。その指導の結果から学んで、つぎの指導に生かすことが、実はアクティブ・ラーニングの実践だと思います。

平成 28 年 6 月 8 日 6 年「みんなの思い伝え隊～移動教室～」

【授業ダイジェスト】

前時に自分たちの受け持つ担当の発表を見せ合っ、お互いにアドバイスし合った。本時では、付箋紙に書かれたアドバイスを基に、グループ毎に自分たちの発表を練り直した。録画した映像も用いて、自分たちの発表を客観的に評価できる工夫も取り入れた。

【授業で、児童は...】

児童は、もらったアドバイスを生かし、また映像資料を使って、修正点を明確にもつことができた。話し合い方も、グループそれぞれが自分たちに合った方法を選んでいった。学習計画やグルーピングなど、児童による自己決定で進めるところには大変苦労をしたが、それら一つ一つが児童にとっては学びとなった。

<寺崎先生より>

○今回みなさんが学んだことや明日から実践したいことで挙げたものは、次の通りです。

- ・「児童がもっている経験や体験を意図的に引き出すことを意識すること」に気を付けて進めていきたいと強く思いました。
- ・「経験はしている。しかし、知っているの段階で留まっている。」そういう状態ではダメで、それを活用する場を意図的につくる必要があることを学びました。
- ・単元の計画はできるだけ延ばさず、子供たちに見通しをもたせて活動させていくことを学びました。
- ・「つながり、積み上げ、意欲、ファシリテート。」今回学んだ重要なキーワードです。
- ・「学年が上がると様々なツールを使いこなしている。低学年・中学年で積み重ねていくことが必要だ。」と思いました。また映像があることで、自分たちでどんどん改善していく姿が印象に残りました。
- ・ファシリテーターがタイムキーパーをしっかりとすることが大事だと思いました。
- ・活動全体を児童が考えていました。時間の見通しなど、全て児童が主体的に計画し進められていました。
- ・めあての共通理解を図ること、学習課題をより明確にしていくことの重要性を感じました。「よりよい」という言葉一つにしても、子供の中で理解に差があり、共通理解をして進める大切さを感じました。
- ・活動内容の行程のアドバイスは指導者が行ってよいこと、時間配分は余裕をもって行うことの二点を学びました。ファシリテーター 8 カ条の「タ」のところは押さえないと総合的な学習の時間・生活科の授業時間は延長してしまうことに注意したいと思いました。
- ・「ファシリテーター 8 カ条」を意識して授業を行っていきたく切に思いました。「プッシュ」と「プル」を上手に使い分けるためにも基礎的・基本的な学習や活用方法をしっかり指導して、それと同時に知識や概念を更新してつくり上げる児童を育成していきたいです。授業に関するたくさんの知見が集まりました。これらが授業に表出していくのが楽しみです。

ワークショップとファシリテーションについて

生活科・総合的な学習の時間の授業づくりのために

1 「ワークショップ」について

「講義など一方的な知識伝達のスタイルではなく、参加者が自ら参加・体験して共同で何かを学び合ったり作り出したりす学びと創造のスタイル」

「参加体験型グループ学習」

- ・参加 先生や講師の話を一方向的に聞くのではなく、自ら参加し関わっていく主体性。
- ・体験 アタマだけでなく身体と心をまるごと総動員して感じていくこと。

体験する 観てみる（振り返り） 分析する 概念化する

- ・グループ お互いの相互作用や多様性の中で分かち合い刺激し合い学んでいく双方向性。

「ワークショップ」の必須条件

場作り... 人の集まる場をどのように設定するか、雰囲気作りの全体。

狭義には、会場の雄選定、机や椅子の並べ方などの空間のデザインが必要。

プログラム... 限られた時間内... よく練られたプログラムのデザインが必要。

ひとまとまりの活動である「アクティビティ」を有機的な流れをもって繋げ全体で目的を達するように「プログラム」を構成する。

例) 情報共有 拡散（ブレインストーミング） 混沌 収束 共有

・ブレインストーミング＝批判厳禁、質より量、自由奔放、結合、アイデア

ファシリテーション... ワークショップを進行させていく機能（場を支配したり、コントロールしたりするのではなく、その場を「ホールド」（保つ、支える、保持する）

ワークショップの進行役をファシリテーターとすることが多い。

ワークショップ的な場を作り、上手に回す「ファシリテーション」の機能
その役割を担うのが「ファシリテーター」

2 「ファシリテーション」について

「ファシリテーション」とは「ファシリテート」の名詞形

= 「促進する」「助長する」「(事を)容易にする」「楽にする」

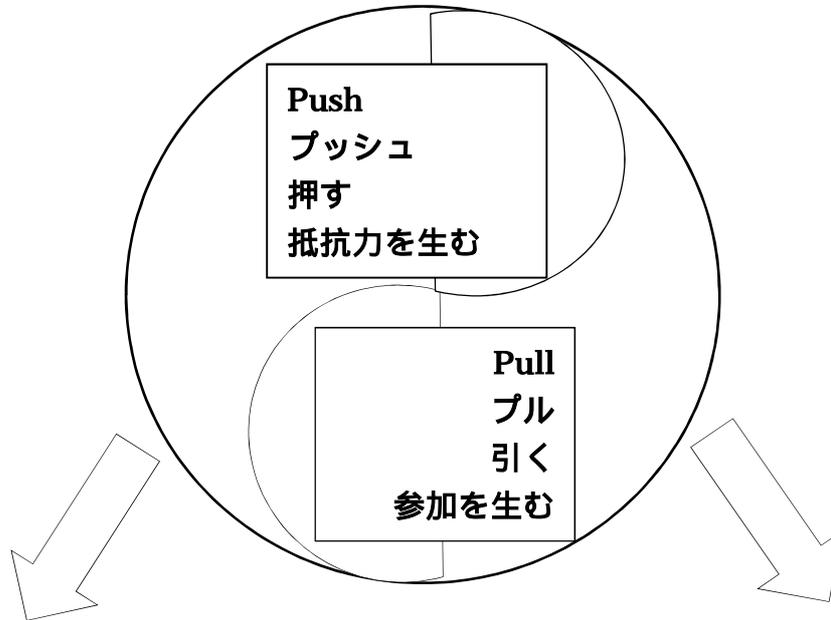
場を作る、つなぐ、
引き出す、促進する

「ファシリテーター」とは、「進行促進役」+時代の転換期の中で新しい重要な役割を担う。

- ・教えない。「先生」ではないし、上に立って命令する「指導者」でもない。
- ・支援し、促進する。場を作り、つなぎ、取りもつ。引き出し、待つ。
共にあり、問いかけ、まとめる。
- ・そこに関わる一人一人が、自分で考え、学び、気づき、創造することを、促したり容易にしたりする。
- ・個人やグループ全体がお互いに安心してのびのび探求できる場を作り、自ら活性化するのを助ける。
- ・その場に参加している一人一人の主体性や当事者意識を育む。
- ・ファシリテーターは「支援者」であり、新しい誕生を助ける「助産師」の役割を担う。

- 「教え指導するリーダーシップ」から「育み支援するリーダーシップ」への転換
- ・指導から支援へ。教えるから引き出すへ。
 - ・「プッシュ」と「プル」

この両方をうまく使い分けることが大切！



<p>押せば自然に抵抗力を生み、押し返してくる。 受け身にする。</p>		<p>引けば自然に引き込んで参加を促す。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ある特定の形にこだわる ・言い含める ・ある提案をする ・決定を行う ・何か説明をする ・命令的な口調を使う ・身体的にグループの中に入っていき ・攻撃的な質問をする ・判断し、裁く ・議論する 		<ul style="list-style-type: none"> ・誠実でオープンな問いを投げかける ・板書に空欄を設ける ・沈黙する ・身体的に後に下がる ・プロセスに任せる ・自分の考えをなくす ・一つの答えにこだわらない ・待つ ・人々が語ることを正確に記録する ・傾聴する

【参考図書】

中野民夫著「ワークショップ 新しい学びと創造の場」岩波新書 2001

中野民夫著「ファシリテーション革命 参加型の場作りの技法」岩波アクティブ新書 2003

ファシリテーター 8 か条

- フ**：ふらっと現れふらっと去る。オイラ脇役、縁の下の力持ち。
参加者が主体の学びの場。よい体験が残ってもファシリテーターのことは忘れられるくらいがよい。ちょっと寂しいけど。
- ア**：在りようそのものが見られてる。その場そのときしっかりと在れ！
ファシリテーターは「技術」よりも、結局その存在感が場に影響を与えている。突発的な状況にも深呼吸して、Be here now!
- シ**：事前の準備は入念に。人事を尽くして天命を待て！
事前にシュミレーションをして幾通りもの万全の準備を。しかし、始まったらそれにはこだわらず、流れに任せよう。
- リ**：リラックスしているとみんなも安心。でも時にきりりとメリハリを！
ファシリテーターがくつろいでいると、みんなにも伝染。でも、「促進役」でもあるので、時には巻いたりプッシュしたりも必要。
- テ**：丁寧に耳を傾けよく聞こう。一人一人の多様さを！
「誰もがその場に貢献できる何かをもっている。」という信念で傾聴を。
Anyone can contribute. その姿勢はみんなに伝わる。
- イ**：一番大事な「場」を読む力。常に個と全体に気配りを！
これがなかなか難しい。一人では困難なので、複数のファシリテーターやスタッフチームで分担して全体をカバーしよう。
- タ**：タイムキープはしっかりと。無理なく自然に、かつ容赦なく！
終わりはたいてい遅れがち。だが、後の約束がある人もいる。ルーズにならずに時間管理は大切。それもあせらず自然に。
- ア**：遊び心、ユーモア、そして無条件の愛と信頼を忘れずに！
何より楽しくなくっては。そして人やグループやプロセスへの無条件の深い深～い「愛」と「信頼」こそがワークショップの基本。

Q1 アクティブ・ラーニングを自分なりの捉え方で考えて、「子どもたちが“目的意識をもって” “主体的に” “かかわりをもちながら” “学びの質を高めていく” 学習」と捉えてみたのですが、それでよいでしょうか。

A アクティブ・ラーニングによる「指導方法の不断の見直しの視点」(中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」27.8.26)に即していることからこの捉え方でよいと思います。

）習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭においた深い学びの過程が実現できているかどうか。

）他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。

）子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返ってつなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

「子どもたちが“目的意識をもって” “主体的に”」は「 」に該当し、「“主体的に” “かかわりをもちながら”」は「 」に該当し、「“学びの質を高めていく”」は「 」に該当すると思います。したがってその意味としてはこの捉え方でよいと思います。

Q2 児童に見通しをもたせること、児童の全員が全員見通しをもつことは難しいとも思われますが、それでも時間内に見通しをもってやれるように、今後も努力していきたいと思えます。

A 「見通し」がなければ闇雲にということになり、どこに辿りつくか分からなくなります。「あそこに行くには、このようにして行ってみよう、これぐらいの時間が掛かるかな。」などと、日常的に見通しをもったり立てたりして行動しています。低学年では、具体的な活動や体験そのもの(こんなことを、こうやりたいなど)が見通しになるでしょうし、中学年、高学年になるに従い、学習経験が積み重なることで見通しはより知的なもの(分りたいこと、調べたいこと、探究したい課題、それらをどのような方法で、どれぐらいの時間を掛けてやるかなど)が増えていくことになるでしょう。子供なりに見通しをもってやっているかどうかは、一つの活動や作業が終わったときに、その先に自分なりに進めようとしているか、または、「先生、終わったのですが、この後、・・・をやっているいいですか。」などという状況や発言から分かります。その逆に「先生、終わった。次、何やるの。」と聞こえたら、見通しのない授業をしている証です。ユニバーサル・デザインの授業では、導入で確認し共通理解した学習の進め方(学習課題や学習計画)を黒板の隅に掲示することもしています。

Q3 必要な指示、「よりよい」を確認する指示はあってもよいと分かりました。ただ、教師のどのような言葉を口にしないように我慢するのかの判断が難しいと感じました。

A これは実践を積み重ねて段々とできるようになっていくことでしょう。ただ、教職経験年数が増えればということではなく、一つ一つ、計画(仮説)・実践・評価・改善のプロセスを常にサイクル化していくことで可能となります。場当たり的ではいつになっても通り一遍の指導しかできません。「今日は、この時間では、こういう発問を工夫してみよう。」「こういう指示は極力控えよう。」などと意図的に授業に臨み、その過程や結果、子どもたちがどう反応したかを評価して、また改善していくことです。

継続していくと、それができるようになっている自分を発見することでしょう。

平成 28 年 6 月 21 日

1 年「しぜんとともにだちになろう ～がっこうのしぜんたんけんをしよう～」

【授業ダイジェスト】

学校の敷地内の自然探検をして、見つけた自然のものを使ってやってみたいことを実際に試行錯誤し、その活動を自分なりに楽しむ学習を行った。児童の思いや願いを大切に自由な活動できるようにし、身近な自然について新たな気付きをもったり、自然と関わる楽しさを感じたりできるようにした。

【授業で、児童は...】

小学校に入学して約 2 か月半であったので、児童は、学校の敷地内のいろいろなところを探検し、様々な草花や落ち葉、生き物などを見付ける活動をとっても楽しんでいった。また、見つけたものを使って自分の作りたいものを作ったり、友達と一緒に遊びを工夫したりしながら意欲的に活動することができた。

<寺崎先生より>

○今回みなさんが学んだこと、明日から実践したいことで挙げたものは、次の通りでした。

- ・ 1 年生でも「結構やれる！」と再確認しました。(担任になったときも思いましたが)だからこそ、計画的に意図的に準備することが必要だと実感しました。
- ・ 低学年のうちから選択したり決めたりする力を育むことが「自ら学び自ら考える力」につながることを感じずにはいられませんでした。ファシリテートする例として、児童の実態を把握しあらゆる可能性を予想することは、指導者に欠かすことができない準備です。材料や活動の場作りは児童の思いや願いを実現することでもあるので大切に、そのような点からも就学前教育を指導者側も学ばなくてはならないと思いました。
- ・ 指導の上で、次の二点を学びました。
 - ・ 一つ目は、目標(めあて)と評価基準(価値)を常に意識すること。
 - ・ 二つ目は、学習の進め方を提示することは大事で、視覚的に工夫を行うこと。
- ・ 基本的には子供の自己決定が大切だと分かりました。
- ・ 教師が話しかけ過ぎると児童が混乱してしまうことにつながるといことが分かりました。
- ・ 子供が自分から決められるようにすることが大切で、今後そのためにどうするか考えます。
- ・ 「自分で決める人間になるために学んでいる。」というお話が印象に残りました。基本的には児童の自己決定であり、その上で、児童の実態で教師は判断することになることを改めて学びました。
- ・ 生活科でも総合的な学習の時間でも同じように自己決定で進められることが分かりました。生活科、総合的な学習の時間の指導の重要なポイントが指摘されています。他教科等の指導とも関連させながら大切にしてください。

Q 1 相手、周りの人の思いに気付き始めた児童、気付いた児童が増えたのは確かです。しかし、まだまだそういう目線に立っていない児童も多いです。気付かせるためにはどうしたらよいのでしょうか。

A だからこそ教育していくのでしょうか。発達が未熟な段階は自己中心的なものの見方や考え
方です。これが成長とともに自己中心から徐々に相手や周りを見られるようになっていくの
は、自己の学びとともに教育があるからでしょう。一人一人がどこまで育っているのかの実
態の把握と、集団教育でどのように育むのか（教育課程・指導計画）の計画のもとに着実に
育てていくのが学校の仕事だと思います。各教科の学習、道徳の時間の指導、特別活動、総
合的な学習の時間等々のそれぞれの指導を関連させ教科横断的に教育課程を編成し実施する
（カリキュラム・マネジメント）ことで確実に育てていくことができます。
子供は先生の的確・適切な教育・指導を待っているといってもよいでしょう。

Q 2 2学期は自分の地域に目を向けてさせていくのですが、直接的な触れ合いなど、子供が思
い付かないことも多いです。どのように子供を導いていけば、また、どうやって広げていけ
ばよいか知りたいです。

A まずは、本当に子供が思い付いていないのかどうかをしっかりと探りましょう。よく使わ
れるウェビングやKJ法的手法などで思い付くことを全て出すようにすることです。中に、
教師がもっている情報も示しておきます。「こんな人もいるよ。」「こんな場所があるよ。」「こ
ういう施設があるよ。」「知らないの？」など出して、それへの反応を観察します。これが
結構、後につながり、生かすことができます。

また、過去の生活科や社会科、特別活動等々の学習で経験した直接的な触れ合いの機会を
思い出させるのも方法の一つです。

こうしたことから全く出ないのであれば、先生の方から紹介することもよいと思います。
直接、間接（写真、音声、手紙、ビデオ）の出会いと興味・関心をもつような工夫が大切で
す。しかし、それは出会いづくりであり、その後は子供に任せるようにしていきましょう。

Q 3 今回は個人作業の多い学習だったため、振り返りで次回にしたいことが定まりにくく、設
定しづらそうでした。どのように次時を展開するのか悩んでいます。

A 低学年、特に1年生は、振り返りの経験がまだ少ないので時間を十分にとる必要がありま
す。この時期であれば10分ぐらい必要かもしれません。特に、書かせる場合は尚更です。
今回の場合もそれを見通した計画が必要だったでしょう。

一方で、諸事情から今回のように時間の余裕のない状態になってしまうこともあるでしょ
う。そのような場合、子供の様子を見て判断します。まだ余力がありそうなら、時間を少し
延長して次のことへつなげます。余力が残っていないようならそこで切り、この続きから次の
時間にやることを予告して終わりにします。そして次時に、前時の振り返りのことを思い出
せるように前時の資料などを用意して見せ、書いたことを自分でもう一度読み返したり、友
達の書いたものを読み合ったりすることで思い出して振り返りをするようにします。私は後
者の方が望ましいと思っています。

いずれにしても大切なことは、つながるように配慮してつなげることです。

Q 4 低学年は、まだ、アイデアや考え、経験が少ない状態です。植物や自然を使ったサンプ
ル、アイデアの提示はどこまでやってよいのかと考えます。いかがでしょうか。

A 教師から提示はできるだけしない方がよい、むしろ体験することを取り入れましょう。今回の1年生のように、何回も校庭のいろいろなところへ出掛けては観察したり触れたりすることが、豊かな表現につながり、経験として蓄えられます。教師が提示するのは理科や社会では必要ですが、生活科では提示したらそこで止まってしまいます。

もちろん、興味・関心をもっていきいきとやりますが、次へのつながりが期待薄になるでしょう。受け身では本質のつながりや深まりに発展していかないでしょう。またサンプルやアイデアは、子供自身が見付けたもの、考えたものを取り上げ生かすようにしていきます。これに刺激を受けてどんどん子供からのアイデアや表現を出すようになっていきます。

Q5 1年生のこの時期はカードに記入することが難しいと思いますが、「こんなものをつくりたい。」というイメージを絵にしてはどうでしょうか。他の学校ではどのようにされていますか。

A それも一つの方法ですね。この時期では、書くのがまだ未熟な子供、絵で表現することがうまくできない子供がほとんどではないでしょうか。この時期では、国語での書く表現の力の習得状況に照らして書くことを取り入れ、多くを望まない、期待しないことが必要です。発達段階的にはどちらかということ、材料を集めておいて作りながらやりながら考え、考えてまた表現するということがふさわしいと思います。生活科の目標に「具体的な活動や体験を通して」、「言葉、絵、動作、劇化などの方法によって…」とあります。多様な体験等や表現を大切にしましょう。

Q6 学習課題「～なにかたのしいことをしよう」の「なにか」をはっきりさせてから学習を始めることは分かりましたが、そもそも学習課題（黒板に貼るもの）を変えたほうがよかったですのではないかと思います。いかがでしょうか。

A 前時の振り返りで、次時の課題や目当てが決められますが、本時では、全員がそれを具体的に考えているかを確認する必要があります。「なにか」とは何をさすのか等、「たのしいこと」とはどんなことをすることなのか等、子供から聞いて「こういうことでいいですね。」「こうやるということですね。」と確認をします。これが本時の見通しをもつということです。ですから、黒板に前時の振り返りで決めた本時の課題が貼ってあっても、それを具体的にすることから、書き直したり、書き加えたりすることは当然あるでしょう。

Q7 本発表の授業はどうするか、いろいろ考えれば考えるほど、とても難しくなってきました。

A 研究発表は、研究の成果や課題を子供の学びの姿で見てもらい実証することが第一です。ここまで育てられたけど、この部分はまだ十分ではないという姿です。そして発表や紀要では、そのための取り組み方や研究内容、指導の工夫など、このように取り組んできたということを報告し評価して意見をもらいます。

では、授業はどうするかといえば、できれば子供が一番育っている姿を見もらうことがよいと考えます。すなわち、子供たちが課題の発見・設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現のそれぞれにおいて主体的、協働的に取り組んでいる姿を見もらうことです。生活科では思いや願いをもって体験し表現し、気づきを深めている姿です。教師はそれぞれの状況について必要に応じて「聞いて・助けて・任せて・見守る」指導を的確・適切に行うことです。そのための視点や方法をこの研究で創り上げてきました。自分たちが創ってきた指導に自信をもってください。

指導計画のどの場面を公開するかについては、今後、相談していきましょう。

平成 28 年 6 月 29 日

4 年「わたしたちも地域の一員～地域行事に協力しよう～」

【授業ダイジェスト】

毎年、地域で開催されている夏祭りの実行委員の方に話を聞いた児童が、夏祭りで地域の人たちが困っていることを解決するお手伝いをするため、解決策を実行する準備を進めた。

【授業で、児童は...】

児童から多様な解決策が出されたが、実際に地域の方に提案して実行できる内容は限られてしまった。しかし、児童は地域行事に「参加する側から支える側」へと意識が変わっていき、意欲的に取り組んでいた。誰に何を伝えるかという相手意識をはっきりとさせながら準備を進めることができた。

<寺崎先生より>

○今回みなさんが学んだこと、明日から実践したいことで挙げたことは、次の通りでした。

- ・私もグループに密着しがちですが、「見守る・任せる」を心がけて続けたいと思います。ねらいを噛み砕いて確認することが大切だと再確認しました。
- ・学習課題を明確に理解し、それぞれがその時間の見通しをもつことが大事と分かりました。
- ・子供たちに任せる勇気が大切であると再確認しました。
- ・日常的な指導の積み重ねが総合的な学習の時間に生きるということを改めて実感しました。
- ・地域を学び参加に関われる題材で、児童が主体的に学べる計画だと思いました。
- ・前の授業のときも思いましたが、言葉の理解を図ることはとても大切であると感じました。（「めあての確認」、「企画書」、「お助け」、「準備」など）
- ・子供が見通しをもって振り返り、次の活動へと繋がっていくことの大切さが分かりました。
- ・アクティブ・ラーニングでは、子供たちに任せる時間を十分に取りますが、それがゴールではなくスタートであり、その時間に子供たちが何を学び、教師が何を見取るかがもっと大切であることを学びました。

いずれもアクティブ・ラーニングの基本であり、皆さんが大切なことを吸収していらっしやると嬉しく思いました。アクティブ・ラーニングは目的ではなく、その視点で授業改善する方法の総体ですから、上述のことを工夫して、目的である研究主題に迫ってください。

Q 1 まっさらの紙、白紙で子供たちがそこから工夫して作り上げていく方が望ましいことは十分に理解しましたが、その活動を円滑に行わせる関連的な指導や本單元における実態に合わせた工夫(子供を助ける・導くために必要なことをする)がとても難しく、判断に迷います。

A 教育改革の中で、これまで教えて理解される指導中心から、自ら学んで知識・理解とともに資質・能力を身に付けていく指導が重視されています。これは世界的な方向性です。これまでに経験してこなかったこと、やってこなかったことを実現しようとしているのですから、頭では理解できても授業で実践できるようになるには、経験を積むしかありません。今、まさに皆さんはそれにチャレンジしているわけです。この1年で目指す方向に向けて変わりつ

つあります。今後も研究主題に迫る手だてを授業づくりの拠り所にして邁進してください。個々の教師が授業や指導計画についてP D C Aのマネジメント(カリキュラム・マネジメント)のサイクルを確立していくことで必ず力は向上するし、子供の変化・変容を実感することになるでしょう。

Q 2 子供たちの活動を見取る際に、どういうグループから、どういう順番で見えていくと効果的であるか、何か視点があれば教えていただきたいと思います。

A 学習指導案では、本時のねらい達成のために、子供が主体的に取り組むよう子供と共に設定した子供の学習課題の解決や実現に向けて学習活動が計画されています。

そしてその学習活動で子供がねらいに迫っているか、学習課題をどう解決し子供が考え思ったことが実現しているかを見取るための評価の観点・評価規準(基準)が設定されています。したがって、まずはその規準(基準)で子供の活動の姿を評価することが基本です。

どういうグループから、どういう順番に見えていくかは、活動開始段階の活動状況から判断することになるでしょう。そのため、全体を見渡ししながら、気になるグループはないかを確認します。また、前時までの活動から真先に支援が必要と考えているグループの状況を確認します。その上でどのように見て回るか順番を判断して実行します。

Q 3 子供たちが思考錯誤して、拡散していった場合、ある程度の方向性をもたせるための手だては、どのようにしていったらよいでしょうか。

A 子供たちの学習経験の密度によって、ある程度の方向性の確認や修正は必要になるでしょう。その際、可能な限り子供たち自身で方向性のずれに気づき、修正していくことができるようにすることが望ましいと思います。

単元または1時間の授業での導入、展開の半ば、終末のどこで手だてを講じるかの判断が必要です。いずれにしても、子供たちに拡散している状況を可視化して伝え、本来の学習課題を解決・実現するための取組に向けて、今やっていることをどうすればよいかをみんなで考えるようにします。こうした修正はできるだけ早い時期に行うことで子供のやる気の減退を防ぐことにつながります。

Q 4 大きな単元の中での6~7月の6学年の研究授業のつなぎ方、関連付け、まとめがはっきりしません。どうすればよいでしょうか。

A 困ったら原点に戻ることです。この単元の目標は何か、この単元で設定した内容(学習課題・学習対象・学習事項)は何かを確認しましょう。何のためにこの単元を創設したのか、自分たちの思いは何だったのかをまず確認することです。

次に子供たちの学習の状態を確認・把握しましょう。先生方の思いや願い、考えと子供の姿を照らし合わせてみて、何が足りないのか、どこに課題があるのかを検討してみましょう。その上で、子供と一緒にどうするか考えてみましょう。総合的な学習の時間は教師が全部用意し整える時間ではなく、計画は立てるけれど実際の活動は子供と一緒に創っていくことの方が多いと思います。行き詰まったり困ったりしたら子供にも投げ掛けて一緒にどうするかを思案してみましょう。子供たちも多分迷っているはずで、迷いを素直に伝え合うことを大切にしましょう。

平成 28 年 7 月 6 日

2 年「みんなわくわくたんけんたい ～まちが大すきたんけんたい～」

【授業ダイジェスト】

まち探検をして、興味をもったお店へのインタビュー計画を立てた。実際のインタビュー後、グループで振り返りをし、発見したことの伝え方を考えて、紙芝居・劇化・クイズ・ペープサート・新聞などグループごとに発表の準備を進めた。

【授業後、児童は...】

実際にお店に行ってインタビューをしたことで、様々な発見があった。お店の中を詳しく見せていただいたり、その場で新たに疑問に思ったことを聞いたりすることができた。(お店の都合があるため、依頼を断られてしまうことがあり、担任は何軒ものお店を回らなければならず、大変だった。日程調整が難しかった。)

寺崎先生より

○今回みなさんが学んだこと、明日から実践したいことで挙げたことは、次の通りでした。

- ・内容の精選は、子供たちに任せる、しかし、子供と相談しながら軌道修正していけばよいということを学びました。
- ・「思い切って子供に任せる」 そのため、作業時間は少なくとも30分とり、導入を5分とするように、効果的に収める時間配分を再確認しました。それを今日の授業から学びました。
- ・プッシュからプルへの転換点を図っていくことを再確認しました。その途中で子供に「聞いて・助けて・任せて・見守る」学習を経験させながら、現状の子供たちの力に照らし無理なくよいものをつくっていける手だてを講じたいと思いました。
- ・子供の活動時間を確保すべきだと感じました。導入は、5・6分が妥当だと思いました。
- ・先生が変わらなければ子供も変わらないと改めて思いました。
- ・ねらいをはっきりさせることが大切だと学びました。
- ・研究授業を通して、知識を基にして学んだことを生かし、さらに学びを深めたり、伝える工夫をしたりしながら対話や交流をすることの大切さを知りました。グローバル化した世の中でアクティブ・ラーニングは、質問する力、伝える力、批判的な考えで確かめたり、反論したりする力が求められています。言語活動の充実を図りながら、教育課程全体を通じて指導していく所存です。まさにそのとおりですね。
- ・手段でなく本質に目を向けていくのは、6月にやった1年生の授業などでは、なかなか難しいと思いました。しかし意識してやっていきたいと思えます。
- ・「生活科は自立への基礎を養う。低学年であっても、なるべく教えない。モデルを示さない。任せる。片付けなども細かく指示しないで、どれくらいできるか見る。できていないなら、普通の授業(教科)などでやる。」という、生活科と他教科との相違点を学びました。
- ・3・4年総合的な学習の時間で、「教えたり、モデルを示したりする」ことをしたくなくても「しない」という教師の意識改革が必要であることを再認識しました。(自分自身、まだ十分

でないと感じました。)

- ・発表の準備をするときに、発表の「内容」と「方法」が子供たちの活動の中でうまくつながっていないときは、教師が「その方法でどんなことを表現したいのか。」を問い掛けてつなげてあげる支援をすることが大切であることを学びました。
- ・「子供たちに任せる」というつもりでやっても、ついつい細かく口を出してしまいます。その結果、早口になってしまっています。もっと気を付けて「任せる」ようにしていきたいです。そのための指導は、他教科で十分経験を積めるようにしていきたいです。

いずれもアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）の基本であり、今回もみなさんが大切なことを吸収してらっしゃることを嬉しく思いました。アクティブ・ラーニングは目的ではなくその視点で授業改善する方法の総体ですから、上述のことを工夫して、目的である研究主題に迫って下さい。

Q1 子供の「こうしたい。」と思う時を見取る手だては、どのようなものがあるのですか。

A 「こうしたいと思っている。」のは内にあるのですから、なんらかの形で外に出すようにすることが必要でしょう。対象との出会いの過程で、子供たちはいろいろとつぶやきや思いを言葉にして周りの子供や教師にも投げ掛けます。それをしっかりと聞き取ったり、聞き直したりして確認し把握するよう努めます。

見取るためには、子供が体験したことや活動したことから抱いた、思いや願い、考え、問いや疑問、驚きや気付きなどを外に出す、出させること（外化）が必要です。したがって、何らかの、書くことや話すことなどの言語による表現が求められます。教師から児童に「こうしたいということをどのようにして出そうか、残そうか。」と問い掛けて、表現の方法のアイデアを引き出すようにします。

表紙の作品について

・「わたしのこの町」・(2年児童)・

この夏、全校児童が、自分たちの住むこの町のすてきな所、お気に入りの場所を一カ所選んで、一言コメントを付け加えて、描きました。

わたしは、まい年、夏休みに行く、きたあらい公園のぼんおどり大会のふうけいがすきなのでかきました。たくさんの町の人たちがおどったり、たのしんだりするところが大好きです。

》補 注《

補注1 人材マップ 本校の人材マップは下記の通り。(一部)

○ 生活科 及び 1・2年

名前・施設	キーワード・学年	住所	電話	備考
森の学級	1・2年 江古田の森	中・江@町@ - @ -		副理事 @@@
江@田幼稚園	1年 幼小交流	旭丘@ - @ - @		園長 @@@@
セ@ン@レ@ン	2年お店(コンビニ)	豊玉@1 - @ - @		元P会長
三@青@店	2年 お店(八百屋)	豊玉北@ - @		
尾@屋	2年 お店(豆腐屋)	豊玉北@ - @ - @		
玉@湯	2年お店(お風呂屋)	豊玉中@ - @ - 12		
豊@浴場	2年お店(お風呂屋)	豊玉北@ - @ - @		
久@宇@	2年 お米屋さん	豊玉@1 - @ - 1		将棋の達人
豊@地区区民館	2・3年 地域	豊玉北@ - - @		館長 @@@@

○ 総合的な学習の時間 及び 3年から6年まで

名前・施設	キーワード・学年	住所	電話	備考
小@久@@	3年 習字・書き初め	杉・@ - @ - @		豊東小旧職員
吉@忠@	3年 沢庵漬け	田柄@ - @ - @		毎年
西@勝@	4年 地域行事	豊玉上@ - @ - @		第@町会長
小@久@	4年 伝統工芸	豊玉北@ - @ - @		江戸小紋絵師
武@大学	3年 地域 濯川	豊玉上@ - @ - @		総務部総務課
山@博@	6年 戦争体験	豊玉北@ - @ - @		第@町会
徳@@@	昔の母校 卒業生	豊玉上@ - @ - @		第1回卒業生
唐@博@館	教育の歴史 玩具	豊玉北@ - @ - @		教育の博物館
江古田ハチミツPJ	3年 地域	豊玉中@ - @ - @		谷@@@

生活科・総合的な学習の時間みならず、教科学習でも必要な人材や地域の施設に関する情報も表に加えている。個人情報にあたるものなので、取り扱いには十分注意。

各学校に備えてあると思うが、追加・修正など定期的な確認・見直しも必要である。

補注2 練馬区立石神井小学校の研究発表会 平成23・24年度練馬区教育委員会教育研究校

(兼 第21回 全国小学校生活科・総合的な学習教育協議会 東京大会)

(兼 第14回 関東地区小学校生活科・総合的な学習教育協議会 東京大会)

研究主題 「地域に学び、地域を愛し、ともに生きる子ども」

～地域との関わりを重視した生活科・総合的な学習の時間を通して～

平成24年11月2日 校長 齋藤栄子先生

地域の「財」(学習材)・地域の協力者(人材)を駆使した公開授業を行い、地域に根ざした生活科・総合的な学習の時間の展開を示す。

補注3 本校の特別活動の研究発表会 平成22・23年度練馬区教育委員会教育研究校
研究主題 「学級活動の特質を生かし、自尊感情を高める指導の工夫」
平成23年11月22日 校長 福田俊彦先生

学級会活動を公開授業で行う。児童が発表の仕方や会の進め方をしっかり身に付け、相手の意見・立場を理解すると共に、自他を自覚して生かす自分の意見を生み出す。

補注4 第6学年の授業 平成27年10月7日 6年「豊東アニメーション」

【授業ダイジェスト】

練馬区を代表する文化「アニメーション」の学習を通して、1年生に練馬区のよさを紹介する準備を行った。本時では、グループごとに自作のアニメーションの下書きや台本を持ち寄り、お互いのグループのアニメーションのアドバイスをし合った。1秒あたりにつき10枚のアニメーションを手書きで作成し、発表の準備を行った。

【授業で、児童は・・・】

互いにアドバイスをし合う協同的な学習は、他教科でも経験を積み重ねている。ただアニメーションを作るのではなく、1年生に分かりやすく伝えるために様々な工夫を凝らしていた。講師の先生からアニメーションについて学ぶ機会や、完成したアニメーションを評価してもらう機会を設けたことで、興味をもって仕上げていくことができた。

この年の最初の研究授業は第2学年で講師は米田典子先生をお願いをした。

平成27年7月15日 2年「まちはたからばこ」

【授業ダイジェスト】

学区域の町探検に出かけ、興味をもった場所や店のことを調べる学習をした。二度、町探検に出かけ、地域の施設や店の人に直接インタビューした。本時では、わかったことをまとめてお世話になった方々に学習したことや感じたこと、お礼を伝える練習をして、友達にアドバイスをした。

【授業で児童は...】

登下校でいつも通っている施設や店で働いている地域の人と直接触れ合ったことで、地域を身近に感じながら、翌日、地域の方にお礼に行く緊張感があった。同時に相手意識をもち、翌日を楽しみにしている様子が伺え、地域に興味をもつことができた。

補注5 本研究所 一般財団法人 教育調査研究所の調査による

補注6 豊島区立目白小学校の研究発表会 平成26・27年度 豊島区教育委員会教育推進校
研究主題 「子供の思考力・実践力を育てる探究的な学習」

～ 地域や新校舎の環境を生かして ～

平成27年11月5日 校長 宮澤晴彦先生

児童が主体的・能動的に学ぶための学習過程の工夫とともに、思考力を高める学習活動の工夫として、各教科と関連させた「思考ツールや技能」の活用成果が大きい。

補注7 協議会のまとめ 研究発表会の折、体育館に今までの全12回の協議会のまとめを掲示。